



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

しらこぼと

2010.5

No. 313

日本野鳥の会 埼玉県支部

S H I R A K O B A T O



柳瀬川探鳥地の昨今

持丸 順 彰(志木市)

日本野鳥の会埼玉県支部の志木市柳瀬川探鳥会は1985年11月24日に初めて開催され、2010年2月21日の探鳥会で39回目(途中雨等で中止が数回あり)、25年間の歴史がある。最近野鳥の数が急激に減少している実感があるので、1985年から5年間と2005年から5年間の11月に開催された柳瀬川探鳥会で観察した野鳥を比較し、更に柳瀬川探鳥会25年間の観察記録と日常の観察記録を加味して私なりの検討を試みた。

●柳瀬川探鳥会

図(P4)が現在の探鳥路である。初回から1995年までは11月開催のみであったが1996年より高草木泰行メインリーダーが2月と11月の年2回開催し、現在に至っている。

●柳瀬川探鳥会の昔と今

1985年から5年間(昔とする)と2005年から5年間(今とする)の観察記録を表(右頁)に示す。種名は柳瀬川探鳥会で観察した全種名を記した。観察出来た種類は毎回30種前後であるが昔と今では種類が違ってきている。

・この探鳥地の目玉はタゲリであった。2001年まではほとんど毎回観察でき、2007年までは時々観察できたがそれ以降は全く観察出来なくなった。昔はタゲリを見るために東京、神奈川方面からの参加者があり、リーダーの方々の気苦労が観察概要から推察出来る。

・昔観察出来て、今観察出来ない種類はハマシギ、オナガガモ、タゲリ、タカブシギ、ユリカモメ、シラコバト、オナガ等である。

・今観察出来て、昔観察出来なかった種類はカワウ、ダイサギ、アオサギ、オオタカ、イカルチドリ、イソシギ、カワセミ、コゲラ等である。

・昔も今も観察出来る種類はコサギ、カルガモ、マガモ、コガモ、ヒドリガモ、チョウゲンボウ、キジバト、ヒバリ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、シジュウカラ、ホオジロ、アオジ、カワラヒ

ワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス等である。

●昔と今で変化した環境

・柳瀬川探鳥地に限った事ではないが探鳥地付近の都市化であり、水谷田圃の休耕田の増加である。

・柳瀬川は上流から土砂の流入が多く、川底の上昇、中洲の変化が生じている。

・日本ワイスレダリー工場が移転し、現在は更地になっているが近い将来マンション群が建設される予定である。

・近年東京湾で育った鮎の遡上が多くなり、特に5月頃から11月頃までの期間、釣り人が増加し、野鳥がゆっくり休める場所が少なくなった。

・水谷田圃では散歩を楽しむ人々が農道をくまなく歩き、野鳥が安心して休める田圃が少なくなった。

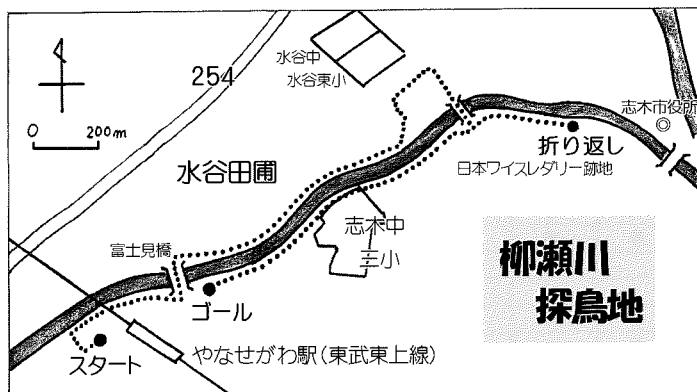
・土日、祝祭日には休耕田でラジコンを楽しむ人々がラジコン飛行機を飛ばしている。

●結論

・ハシブトガラスが急激に増加し、オナガ、カルガモの繁殖に顕著な影響が出て、特にオナガが壊滅的に減少した。私の推定であるが、人口増加による生ゴミの増加と一時的に柳瀬川の土手に生ゴミを蒔く(捨てる?)人がいたのも、これらが原因と推定している。現在、ゴミ置き場は順次金網で囲いを取付け、土手に生ゴミを蒔く人もいなくなったのでハシブトガラスは減少し、オナガも徐々に増加を始めた。

・昔も今も観察出来る野鳥でも、今は数が急激に減少している種類が多い。はっきり

表	種名	昔					今				
		1985/11/24	1986/11/2	1987/11/1	1988/11/13	1989/11/3	2005/11/20	2006/11/5	2007/11/4	2008/11/3	2009/11/28
1	カイツブリ										●
2	カワウ					●	●	●	●	●	●
3	ヨシゴイ					●					
4	ゴイサギ						●				
5	ダイサギ						●	●	●	●	●
6	チュウサギ				●			●			
7	コサギ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
8	アオサギ						●	●	●	●	●
9	マガモ	●	●				●	●	●	●	●
10	カルガモ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
11	コガモ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
12	ヒドリガモ		●		●	●	●		●	●	
13	オナガガモ	●	●	●	●	●					
14	オオタカ						●		●		●
15	チョウゲンボウ		●			●	●	●	●	●	●
16	キジ	●						●	●	●	●
17	コチドリ			●							
18	イカルチドリ						●	●	●	●	●
19	タゲリ	●	●	●	●	●					
20	ハマシギ	●		●							
21	クサシギ	●									
22	タカブシギ	●				●					
23	イソシギ						●	●	●	●	●
24	タシギ	●								●	
25	ユリカモメ	●	●	●	●	●					
26	セグロカモメ				●						
27	シラコバト			●							
28	キジバト	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
29	ヒメアマツバメ		●								
30	アマツバメ		●								
31	カワセミ						●	●	●	●	●
32	コゲラ							●	●	●	●
33	ヒバリ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
34	キセキレイ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
35	ハクセキレイ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
36	セグロセキレイ	●	●	●		●	●	●	●	●	●
37	ビンズイ										●
38	タヒバリ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
39	ヒヨドリ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
40	モズ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
41	ジョウビタキ				●	●		●	●	●	●
42	ツグミ	●	●	●	●			●			●
43	セッカ					●					
44	シジュウカラ		●	●			●	●	●	●	●
45	メジロ							●	●		●
46	ホオジロ	●			●	●		●	●		●
47	カシラダカ	●				●					
48	アオジ	●	●		●	●	●	●			
49	カワラヒワ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
50	シメ					●		●		●	●
51	スズメ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
52	ムクドリ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
53	オナガ				●	●					
54	ハシボソガラス	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
55	ハシブトガラス	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
56	ドバト(番外)									●	●
	種名合計	29	27	24	26	31	25	34	33	30	34



逆に新しい環境に順応した種類が増加、野鳥の生きるためのしたたかさを感じる。

・平成 21 年度は志木大橋と富士見橋間の川底、中洲、河原等の土砂の除去工事が実施された。平成 22 年度は富士見橋より下流域に順次同様の工事が実施される予定である。これにより柳瀬川探

した原因が不明であるが将来が心配である。

・環境の変化に順応出来ない種類は減少し、鳥地にどのような影響が出るか見守りたい。

第 1 回 見沼たんぼグリーン大作戦 参加報告

3月号の行事案内に掲載したとおり、3月14日(日)に、見沼たんぼ・さいたま市&市民ネットワークによる見沼たんぼグリーン大作戦が実施されました。当支部は、見沼自然公園探鳥会、及び、三室地区臨時探鳥会でこの催しに協力しました。

当日は好天に恵まれ、両探鳥会の出席者計 35 名が、鳥見とゴミ拾いの二兎を追ってがんばりました。鳥見人はゴミ拾いに向いているようで、皆さん、予想以上にゴミ拾いに熱中され、鳥探しがいささか手薄になるほどでした。



普段はあまり気にしない道端、畑、草むらなどに、空缶、紙くず、タバコの吸殻などが沢山ありました。正直言って、鳥見とゴミ拾いの両立はなかなか難しかったのですが、きれいになった見沼たんぼを見て、皆さん満足気でした。日頃、我々に鳥見の楽しさを与えてくれるこの地に感謝して、これからもグリーン作戦に協力していく必要を感じました。

※写真は、見沼自然公園探鳥会参加の一部の方々です。

※最終集積場所まで持っていったゴミの袋数は右表のとおりです。なお、見沼自然公園探鳥会では、コースの途中で作戦参加他団体(見沼ファーム 21)のゴミ収集車に積んでもらった袋があります(数不明)。(浅見 徹)

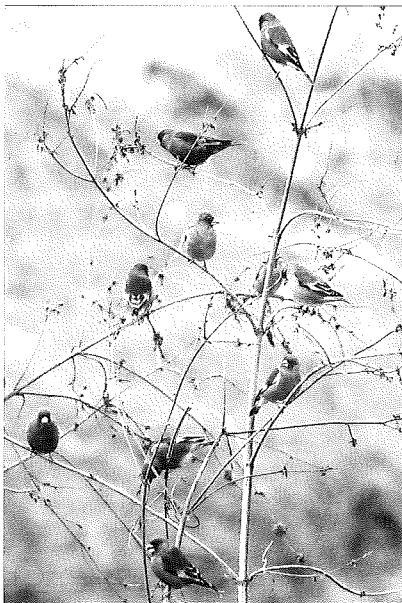
	見沼自然公園	三室地区	合計
可燃物	9	20	29
不燃物	4	9	13
合計	13	29	42



野鳥情報

熊谷市久下 ◇1月2日、コイカル(小荷田行男)。

さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇1月6日、カワウ、アオサギ、ヒドリガモ、コガモ、カルガモ、オナガガモ♂1羽、オオタカの声、ハイタカ、イカルチドリ、カワセミ♂、アリスイ、ジョウビタキ♂、アカハラ、シロハラ、ツグミ、アオジ、カシラダカなど。1月11日、オオタカ若鳥1羽がカラスに騒がれながら、オオバン?をつかんだまま、林内に飛び込む。他にエナガ2羽、アカゲラ♂1羽、トラツグミを確認。1月17日、ノスリが悠々と飛び、セグロカモメも帆翔。1月19日、エナガ2羽。クサシギがイカルチドリ、タシギとともに採餌。ガビチョウ2羽も越冬中。1月27日、アカゲラ♂1羽、オオジュリン4羽など。1月29日、オオタカ、オナガ、ガビチョウ。キジの声。2月2日、久しぶりのカケス。アカゲラ♂1羽、ジョウビタキ。元荒川でセグロカモメ、ユリカモメ。2月5日、シロハラ、アカハラ、ガビチョウ2羽、カケス。ベニマシコ2羽、内1羽は♂。2月10日、何故かアカハラを



カワラヒワ(ブリングマン・ウイリアム)

よく見た。♂ばかり4羽。ガビチョウ、カワセミ、カシラダカ。エナガの声。2月11日、キセキレイ、エナガ。遠くの木にとまるオオタカ成鳥。2月18日、アカゲラ♂1羽。元荒川でイカルチドリ、イソシギ、タシギが揃っていた(鈴木紀雄)。◇2月20日、南端の林でアリスイ1羽。奥の方で木から木へ移動していた。帰り路でアカゲラ♂1羽、大きなクヌギに来る(藤原寛治)。◇3月1日 ウグイスの初音。遠慮がちで小さな声だった。3羽のカケスがキヅタの実を食べていた。他にシロハラ、アカハラ、ジョウビタキ、キセキレイ等(長嶋宏之)。

さいたま市岩槻区野孫 ◇1月13日、ケリ2羽、近くでハイタカが上空通過。2月21日、ケリ1羽。2月23日、上空を帆翔するノスリ1羽、1羽のカラスのモビングを滑空のみで楽々かわしていた。下の農地でケリ2羽(鈴木紀雄)。

さいたま市岩槻区長宮 ◇1月19日、ホオアカ1羽(鈴木紀雄)。

さいたま市岩槻区新方須賀 ◇1月19日、タゲリ5羽(鈴木紀雄)。

さいたま市岩槻区釣上 ◇1月19日、ケリ3羽(鈴木紀雄)。

さいたま市岩槻区高曽根 ◇1月25日、ケリ6羽。2月5日、ケリ3羽。2月15日、ホオアカ2羽。ケリは見つからず(鈴木紀雄)。

さいたま市岩槻区大口 ◇2月12日、ハヤブサが飛行中のハシボソガラスを襲ったり、急降下してドバトの群れを襲ったりしたが、失敗し、鉄塔最上部にとまった(鈴木紀雄)。

さいたま市岩槻区南辻 ◇1月27日、慈恩寺橋の街灯でセグロカモメ成鳥1羽(鈴木紀雄)。

さいたま市緑区上野田 ◇1月28日、タゲリ2羽とミヤマガラス約50羽の群れ。2月21日、木にとまるオオタカ成鳥(鈴木紀雄)。

さいたま市緑区大門 ◇2月15日、スズメとカワラヒワ約500羽の混群中にスズメの白変個体を発見。眉斑、耳羽にあたる部分、風切羽の一部は薄茶色。嘴は黒。遊水池の地面でイカルチドリ16羽(鈴木紀雄)。

さいたま市緑区代山 ◇2月21日、浦和学院高校傍の道路上空でハイタカ1羽（藤原寛治）。

さいたま市桜区秋ヶ瀬公園 ◇2月9日、子供の森でアカハラ、シロハラ、アカゲラ♂。ピクニックの森でカワセミ、エナガ（鈴木紀雄）。

さいたま市桜区在家荒川総合運動公園 ◇2月20日、田んぼでカワラヒワの群れ50羽士が乱舞。芝生で多数のヒバリが採餌。獲物の取り合いか？チョウゲンボウとノスリがバトル。その他、タシギ、モズ、ジョウビタキ、ホオジロ、カシラダカなど（長嶋宏之）。

さいたま市見沼区膝子 ◇2月9日、タゲリ3羽（鈴木紀雄）。

蓮田市黒浜 ◇1月7日、東埼玉病院でジョウビタキ♂1羽、ルリビタキ♀1羽、カシラダカ約50羽、ツグミ、シロハラなど。1月13日、上沼上空をノスリ飛ぶ。1月18日、下沼で木にノスリ、上空をチュウヒ。上沼でカイツブリ10羽、オオバン6羽、カルガモ、コガモなど。アシ原でシメ、セッカ、カシラダカ、ホオジロ、アオジ、ツグミ、尾のないモズ♀1羽。周辺でヤマガラ、オオタカ飛翔、オナガ、カケス。東埼玉病院周辺でシロハラ、ビンズイ3羽、トラツグミ、ヒガラ2羽など。1月20日、上沼でノスリ飛翔。東埼玉病院内東縁でヤマガラ、ルリビタキ♀、カケス、オナガ。1月27日、上沼でノスリ1羽、ベニマシコ♂若鳥1羽♀1羽、カワセミ♂1羽。2月4日、下沼上空でカラスにモビングされるオオタカ若鳥1羽。上沼周辺でベニマシコ3羽、カケスなど。林縁から林に飛び込む全身黄褐色の大型の小鳥、トラツグミに違いない。2月18日、ヤマガラ4～5羽の群れが「ニーニー」とにぎやか。林内でカケスの「ジェー」、ルリビタキの「ゲッゲッ」が響く（鈴木紀雄）。◇1月21日、東埼玉病院でカシラダカ15羽、ゴイサギ1羽、タシギ1羽、コゲラ5羽、ヤマガラ3～4羽、エナガ2羽など。2月11日、ジョウビタキ、ヤマガラ、ベニマシコ、アオジ、タヒバリ、カシ

ラダカ、シロハラなど。2月21日、黒浜沼でダイサギ、アオサギ、オオバン、コガモ、マガモ、オオジュリンなど。モズが電線にとまり、あげヒバリの声を高らかにうたっていた。他にもいくつか小鳥の声をまねしていた（本多己秀）。◇3月1日、自宅庭の主のシメがあらぬ事に、窓に激突して気絶した。ペットボトルで湯たんぽを作って1時間後、何のお礼も言わずに、飛び去った。3月2日の朝、いつもの指定席で辺りを見渡していた（長嶋宏之）。

蓮田市蓮田 ◇1月11日、頭部だけ白化したヒヨドリ1羽。1月17日、肩の所に6mm位の白色のあるメジロ1羽。1月の別の日には首の所が白化したメジロ1羽。いずれも自宅庭の餌台にやってきた。2月16日、自宅庭でシロハラ、2年ぶりに見かける。2月24日午前7時、アオゲラ「ピョピョピョー」と大きく鳴いた。自宅向かいの竹やぶの雑木にいるようだったが、姿は見せなかった（本多己秀）。

蓮田市笹山 ◇1月13日、農道を車で走っていたら、次々に鳥が飛び出した。ヒバリ、タヒバリ、ツグミ、ホオジロ、オオジュリン、カシラダカ（鈴木紀雄）。

蓮田市西城沼公園周辺 ◇2月4日、ヒヨドリ35羽が畑のホウレンソウを採食。大根の葉も食べていた。2月15日、近頃、コジュケイが鳴きだした。ムクドリも2羽で行動しているのが目に付く。つがいになったようだ。2月19日、コナラの梢にシメが12羽、かたまっていた。渡りの準備なのだろうか。ヒヨドリ70羽士がブロッコリーの葉を食べていた。2月25日、ハシブトガラスが巣材を運んで行った。造巣が始まったようだ（長嶋宏之）。

菖蒲町三箇 ◇1月7日、田んぼでミヤマガラス約300羽の群れ。その中にコクマルガラス約40羽、その内淡色型が9羽まで数えられた（鈴木紀雄）。

深谷市本田 ◇1月10日、白鳥飛来地左岸でツメナガセキレイ（亜種キタツメナガセキレイ）1羽。黒い足、2本の翼帯、近づいたキセキレイに比べ短い尾羽、明瞭な眉斑

はない。ここでは同種を2007年、2009年の春に観察。冬は初めてで、黄色い下面は、胸の辺りが少し淡い。2月20日、亜種キタツメナガセキレイ1羽、引き続き越冬中。カワアイサ♂1羽、ここで見るのは久しぶり（鈴木敬）。◇2月24日午後、白鳥飛来地荒川南岸でコハクチョウ8羽、カワウ、アオゲラ、アカゲラ、コゲラ、ツグミ、ホオジロ、カシラダカ約20羽、カケス、エナガ1羽、イカル1羽など（本多己秀）。

北本市北本自然観察公園 ◇1月20日、木道の所でルリビタキ♂1羽、皆の人気者。別の場所でもう1羽、ヤマガラ。カシラダカの群れ、シメ、アカハラ、シロハラ、クイナ1羽、ダシギ1羽、ガビチョウ2羽など。鳥多く、しかも人との距離が近い（藤原寛治）。◇1月21日、ツミ♀1羽、木にとまる姿をかなり近距離でじっくり観察。エナガの声、ベニマシコの飛翔。ヤマガラ、ツグミ、シロハラ、カワセミ、ジョウビタキ♂♀、ルリビタキ♂♀、ガビチョウ。北端お茶の生け垣の下でビンズイ2羽（鈴木紀雄）。

川島町吹塚 ◇1月23日、コチョウゲンボウ♂1羽飛来、木の枝に止まった。電線にシラコバト2羽。田んぼにケリ5羽、タゲリ5羽。いずれも、同じ場所からの観察（鈴木敬）。

坂戸市高麗川 ◇2月10日、中里堰の下流でカルガモ、マガモ、コガモの群れの中にトモエガモ♂1羽。堰の上から観察する。当地初見（増尾隆）。

坂戸市城山 ◇2月18日正午過ぎ、老人福祉施設城山荘の庭の高い木に、アトリ約50羽ほどの群れ（増尾隆）。

春日部市増田新田 ◇2月12日、タゲリ3羽（鈴木紀雄）。

久喜市久喜菖蒲公園 ◇2月21日、昭和沼でオオジュリン20羽+の群れがアシ原で忙しく採餌。セグロカモメが1羽、ボート桟橋で休んでいた。ホオジロハクセキレイが1月と同じ場所の芝生にいた。その他、カンムリカイツブリ、オオバン、キンクロハジロ、コガモ、ヨシガモ、ホシハジロ、ヒド

リガモ、オナガガモ、マガモなど多数（長嶋宏之）。

菖蒲町上大崎 ◇2月24日、ミヤマガラス約500羽の大群を見つける。よく探すとコクマルガラス暗色型約30羽、淡色型約10羽が混じっていた。コクマルガラスの「キュッキュッ」という声も聞こえてきた（鈴木紀雄）。

菖蒲町小林 ◇2月24日、電線のスズメ約50羽の群れ中にニュウナイスズメ6羽、また別の電線のカワラヒワ約100羽の群れ中にニュウナイスズメ10羽が混じる。コチョウゲンボウ♂がしきりに羽ばたいて高空に上がり旋回、やがて翼をたたみ急降下して、飛翔中の小鳥を襲うも失敗。そこにチョウゲンボウ♂がからんできて、やがて、別々に畑の畔に降りた（鈴木紀雄）。

羽生市羽生水郷公園 ◇2月25日、ハヤブサが電柱の上であたりを睥睨し、アシ原の上をハイイロチュウヒ♀が旋回するも、温かな好天に誘われたのかアオジは囀り、ホオジロ、カシラダカは何もないかの様に採餌していた。池ではオオバンが潜水を繰り返す、杭の上ではアオサギが昼寝をしていた（長嶋宏之）。

白岡町上大崎 北緯36.0483度東経139.6113度 ◇2月25日、ミヤマガラス600羽±、コクマルガラス白色型3羽、暗色型25羽±。耕転した田圃で、少しつつ移動しながら採餌（長嶋宏之）。

白岡町元荒川八幡橋下流 ◇2月25日、川の中央でカワセミがホバリングして対岸に消え、砂州でカルガモ32羽が眠っている傍を籠脱けしたコクチョウが優雅に泳いで通り過ぎた。川岸の草原でキジ♂がのんびりと採餌していた。その他、オナガガモ、イカルチドリ、ダイサギ（長嶋宏之）。

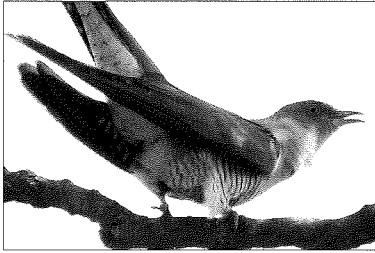
滑川町武蔵丘陵森林公園 ◇3月3日、フクロウの声が「ゴロスケホッホ」。暗くなりかけた森林に響いた（長嶋宏之）。

表紙の写真

チドリ目シギ科クサシギ属アオアシシギ
蟹瀬武男（さいたま市）



行事案内



カッコウ(寺添捨男)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章の担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費: 就学前の子無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。**持ち物:** 筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば双眼鏡などの観察用具も(なくても大丈夫)。**解散時刻:** 特に記載のない場合、正午から午後1時ごろ。

悪天候の場合は中止。小雨決行です。

できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

加須市・加須はなさき公園探鳥会

期日：5月2日(日)

集合：午前8時45分、東武伊勢崎線花崎駅改札口、集合後徒歩で現地へ。または午前9時、加須はなさき公園駐車場。

交通：東武伊勢崎線春日部 8:22→久喜 8:35→花崎 8:42 着。JR 宇都宮線大宮 7:58→久喜 8:23 で東武伊勢崎線乗り換え。

共催：加須はなさき公園管理事務所

担当：青木、中里、長嶋、四分一、栗原、内田、植平、長谷川、小林(正)、茂木

見どころ：園内の緑も一段と鮮やかになり、自然観察園では花の香りが満ちています。この時季にはあっと驚く珍客との出会いも期待できます。初心者大歓迎の探鳥会にぜひお越しください。

千葉県習志野市・谷津干潟探鳥会

期日：5月5日(水・祝)

集合：午前9時40分、JR 武蔵野線南船橋駅改札口付近。

交通：JR 武蔵野線新習志野行、武蔵浦和 8:35→南浦和 8:38→南船橋 9:29 着。

担当：杉本、手塚、菱沼(一)、長谷部、伊藤(芳)、大塚、野村(修)

見どころ：満潮のところに探鳥会がはじまることになり、潮回りはあまりよくありません。午後まで粘るとシギ、チドリ類が海から入ってくるのですが……。夏羽の珍鳥を期待しましょう。

東京都・三宅島探鳥会(要予約)

期日：5月7日(金)(夜行・船中泊)～9日(日)

前月号でお知らせしました。4月10日集計では、まだ余裕があります。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：5月9日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷 9:09 発、または寄居 8:51 発に乗車。

担当：大澤、森本、中里、倉崎、高橋(ふ)、後藤、藤田(裕)、栗原、飛田、新井(巖)、千島、鶴飼、岡田

見どころ：緑を渡る風が爽やかな季節になりました。渡りの途中に立ち寄った鳥たちとの出会いがあるかも知れません。今年はどうんな鳥に会えるのでしょうか。足元の草花も楽しみながら探してみましよう。

蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：5月9日(日)

集合：午前8時40分、JR 宇都宮線蓮田駅東口バス停前。

担当：田中、玉井、吉安、赤坂、長嶋、長野、菱沼(一)、榎本(建)

見どころ：今月は川島橋を出発して、黒浜沼への片道コース。連休明けの田んぼに期待し、ムナグロなどのシギ・チドリ類や婚姻色のサギを探し、沼では水に飛び込むコア

ジサシやカワセミにも会いたいですね。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：5月15日(土) 午後3時～4時ころ
会場：支部事務局 108 号室

栃木県・奥日光探鳥会 (要予約)

期日：5月16日(日)
前月号でお知らせしました。

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：5月16日(日)
集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。
後援：さいたま市立浦和博物館
担当：楠見、福井、倉林、渡辺、若林、小菅、赤堀、新部、青木、増田、宇野澤、須崎、船木
見どころ：見沼田んぼは今、首都圏有数の緑地として注目されています。支部も三室、差間など数カ所で探鳥会を開いています。少しでも地元に着した活動へと、3月にはゴミ拾いをした緑地に、カッコウがやってきます。

長野県・戸隠高原探鳥会 (要予約)

期日：5月22日(土)～5月23日(日)
前月号でお知らせしました。

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：5月23日(日)
集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。
交通：西武新宿線本川越 8:44 発、所沢 8:38 発に乗車。
担当：長谷部、高草木、中村(祐)、山本(真)、久保田、石光、山田(義)、山口、谷、間正、星
見どころ：鳥たちのさえずりを楽しみましょう。ホオジロ、セッカ、オオヨシキリなど、たくさんの鳥でにぎやかな季節。さて、何種類の鳥たちのさえずりが聞けるでしょうか。

野鳥記録委員会の最新情報

日本野鳥の会埼玉支部

●ズグロチャキンチョウ

英名 Black-headed Bunting
学名 *Emberiza melanocephala*
分類 スズメ目ホオジロ科ホオジロ属



2010年3月14日から17日の間、蓮田市黒浜地区でオス1羽が長嶋宏之会員によって観察、写真撮影されました(上写真)。同氏によれば「開けた草地に、30羽前後のスズメ、10羽ほどのカシラダカが降りて採餌をはじめると、遅れて本個体が降り採餌していた。スコープで観察した限りでは、尾羽のすりきれ、いたみなどは見えなかった」とのこと。

日本鳥学会『日本鳥類目録改訂第6版』には、1988年5月飛島、1928年11月と1930年11月八丈島、1985年10月渡嘉敷島、1985年12月与那国島の迷行記録があります。

三省堂『世界鳥名事典』によれば、「ヨーロッパの地中海沿岸やカフカス・イランおよびドナウ川・ボルガ川下流域で繁殖し、冬はインドまで渡る」とあります。すなわち、本来の分布域は、日本からかなり離れています。一方、飼鳥として多数輸入されていることも知られています。これらのことから、飼鳥が逃げて野生化した、いわゆる「籠脱け」である可能性を考えなければなりません。

「籠脱け」が考えられる記録の取り扱いとして、2001年4月と2006年1月のサカツラガンに「確認記録種リストに入れたい」とした例があります。今回のズグロチャキンチョウについても「確認記録種リスト」には入れないこととして、別に「確認保留種リスト(仮称)」を新設する案を検討しています。「確認保留種リスト」については、また後日お知らせします。



行事報告

12月6日(日) さいたま市 民家園周辺

参加: 56名 天気: 晴

カワウ ゴイサギ コサギ アオサギ マガモ
カルガモ コガモ オオタカ チョウゲンボウ
バン キジバト カワセミ コゲラ ハクセキレイ
セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビ
タキ ルリビタキ アカハラ ツグミ ウグイス
シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ
アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズ
メ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブ
トガラス (35種) (番外: ドバト) 前の日の雨から
一転、朝から爽やかな快晴。そのためか、鳥の数が
いつになく多かった。林に入ると、そこらじゅう
から鳥の音がしていた。トピックは、この探鳥
会では珍しいルリビタキ。メスタイプで、腰の瑠
璃色が美しかった。ただ、林と畑に挟まれた細い
道だったため、後ろの方の方がよく見ることが
出来なかったのは申し訳なかった。残念ながら、
カモ類は少なかったが、山の冬鳥たちはじっくり
観察できた。親子連れも多かったが、子供たちにも
楽しんでもらえたように思う。(伊藤芳晴)

12月12日(土) 所沢市 狭山湖

参加: 35名 天気: 晴

ハジロカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ
アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ
オカヨシガモ ホシハジロ キンクロハジロ ミ
サゴ トビ オオタカ コジュケイ ウミネコ
キジバト アオゲラ コゲラ ハクセキレイ セ
グロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ルリ
ビタキ シロハラ ツグミ ウグイス エナガ
ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ ア
オジ カワラヒワ シメ スズメ ハシボソガラ
ス ハシブトガラス (39種) (番外: ガビチョウ、
ドバト) 師走とは思えない暖かい陽気に恵まれ、
ゆったりと歩くことが出来た。コース前半は、ア
オジ、ルリビタキ、シロハラ等林の鳥を観察。サ
ービス満点のアオゲラと番外の移入種・ガビチョ
ウの出現で盛り上がった。狭山湖のカンムリカイ

ツブリは、沖合いに100羽規模で群れており、中に
混じるハジロカイツブリも確認。ウミネコがポツ
ンと1羽。当探鳥会では初の記録である。隣接の
多摩湖にシロエリオオハムが入っており、アフ
ターで足を運んだ方も多かったようだ。(石光 章)

12月13日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 26名 天気: 晴

カイツブリ カワウ オオタカ キジバト カワ
セミ コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ
ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジョウビタキ シ
ロハラ ツグミ ウグイス ヤマガラ シジュウ
カラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ
カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソ
ガラス ハシブトガラス (27種) 強風のため、予
定していたコースを変更して野鳥の森へと向かっ
た。土手の下を通ると早速モズ、ホオジロ、カシ
ラダカなどが迎えてくれた。ゴルフ場東側の縁で
は風が穏やかなのでほっとする。一息つくと、上
空では真っ白なオオタカが華麗な舞を見せてくれ
た。何度見ても飽きることがない。池に出るとき
きれいなルリビタキが皆を喜ばせてくれた。鳥合
わせの最中、間近にヤマガラが水を飲みに出てきた。
最後に盛り上がった探鳥会だった。(中里裕一)

12月13日(日) さいたま市 岩槻文化公園

参加: 53名 天気: 曇後晴

カイツブリ カワウ ダイサギ カルガモ コガ
モ ヒドリガモ オオタカ キジ イカルチドリ
イソシギ ユリカモメ セグロカモメ キジバト
カワセミ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ
ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグ
ミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ
アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ
カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラ
ス (35種) (番外: ドバト) 下見ではやや物足りな
い結果に。行事予定が誇大広告になる懸念から前
夜に一捻りし、探鳥会冒頭の説明の時にシメの♂
♀及びカワラヒワの亜種(オオカワラヒワ、カワ
ラヒワ)の見分け方を説明する。予想通り、前半
は鳥の出は悪かったが、教材のカワラヒワとシメ
は幸い多数出現し、参加者も識別で盛り上がる。
それでも終わってみれば35種。鳥合わせの後に
「次回の2月探鳥会は12月よりも例年鳥は良く見
られます」と懲りずにアピール。(長野誠治)

12月16日(水) 北川辺町 渡良瀬遊水地

参加: 36名 天気: 曇

カイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ トモエガモ ヨシガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ミコアイサ ミサゴ トビ ノスリ ハイロチュウヒ チュウヒ チョウゲンボウ オオバン ユリカモメ セグロカモメ キジバト カワセミ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ ホオジロ オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (43種) (番外: ドバト) スタート直後谷中湖でカモを見ているとミサゴが頭上を飛んだ。中ノ島から白くなったミコアイサなどのカモを見ていると「トモエガモ」の声がかかり、ここでは比較的珍しいペアをじっくりと見ることができた。チュウヒに加えてハイロチュウヒ♀の飛翔も見られ、ノスリも何度も大空を旋回してくれて、ワシタカの天国渡良瀬を実感できた探鳥会だった。(玉井正晴)

12月19日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 8名

新井浩、榎本秀和、海老原教子、海老原美夫、志村佐治、千野安以、藤掛保司、松村慎夫

12月19日(土) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

参加: 50名 天気: 晴

カイツブリ カワウ アオサギ オシドリ マガモ カルガモ コガモ オナガガモ ハイタカ コジュケイ バン カワセミ アオゲラ コゲラ セグロセキレイ ビンズイ ヒヨドリ ルリビタキ ツグミ ウグイス エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ シメ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (31種) (番外: ガビチョウ、ソウシチョウ) 朝は冷え込みが厳しかったが、日中は風も無く探鳥日和。カモは今年も少ないが、西田沼でマガモの中にオシドリ♀。大園路を行くとカラの混群に出合った。エナガを観察しているとアオゲラが姿を見せてくれた。ふれあい広場は探鳥のひとつのポイントだがこの日はあまり鳥が出て来ず。あざみくぼ沼のカモを順光で見ようと、運動広場に回った。しかしマガモとわずかにオナガガモの♀。

疎林地帯では定番のビンズイをゲット。山田大沼の変色した水はだいぶ澄んできたが、カモは非常に少ない。何しろ海ガモの仲間が1羽も居ない。この日元気だったのはやはりガビチョウ。そして藪の中の低い所を飛び交う多くのソウシチョウ。ウグイスやアオジの居場所はちゃんと保たれているのだろうか。(中村豊己)

12月20日(日) 加須市 加須はなさき公園

参加: 38名 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ トビ オオタカ チョウゲンボウ タシギ キジバト カワセミ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (39種) (番外: ドバト) 来る度に住宅が増えており、住宅数と反比例で野鳥の数は減るのかと心配しつつ探鳥開始。ところが池には、はなさき公園にしてはカモ類が多い。自然観察園ではカワセミも出現し、上空を猛禽も飛翔。観察園を出てしばらく行くとまたカワセミ出現。全員がじっくり見ることが出来た。最後にはタシギが近くから飛び立ち、終わって見れば参加者数より多い39種。個体数は少なかったが楽しめた。(青木正俊)

12月20日(日) さいたま市 三室地区

参加: 47名 天気: 晴

カイツブリ カワウ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ クイナ バン イソシギ タシギ キジバト カワセミ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (35種) 年末の穏やかな日和のなか、ゆっくりと探鳥。カモ類も7種類出現し、1年の締めは今年も三室の探鳥会に元気に出掛けられたとの参加者の声で無事に終了した。担当するリーダーも高齢化してよたよたしているが、これからもみんな探鳥会を支えて行きたい。(楠見邦博)



●探鳥会緊急連絡カードを配りはじめました

万が一探鳥会などで緊急事態が発生した時にその方の住所・氏名・緊急連絡先・持病の有無などを知るための緊急連絡カードについては、本誌3月号でお知らせしました。

4月の探鳥会から、実際に配りはじめました。表からは見えない二つ折りカードの内側に情報を書き込み、ケースに入れて首からさげていただきます。全参加者に強制するものではなく、趣旨をご理解いただいた方だけにご協力いただきます。当分の間、カード・ケースとも、無料でお配りします。一度受け取った方は、次の探鳥会にはそれを首から下げてください。首から下げるのがいやな方は、ザックなどに着けていただいてもかまいません。お持ちであることが分ればいいのです。

緊急連絡カードが実際の役に立たないように祈りながら、趣旨へのご理解をお願いします。

●会議などに参加

2月9日(火)と3月1日(月)の2回、さいたま市緑区役所で開催された「緑区の花・木・鳥の選定委員会」に、楠見邦博監事が委員として参加しました。

3月13日(土)、都内で開催された財団(本部)の評議員会に、評議員として橋口長和幹事、傍聴人として田邊八州雄幹事が参加しました。

●普及活動

3月20日(土)、坂戸市浅羽ビオトープと高麗川沿いのコースで開催された坂戸市環境学館いずみ主催の「バードウォッチングウ

ォーキング」講座には22名が参加、坂口稔・増尾隆が指導しました。

本誌1月号でご紹介した所沢市さいたま緑の森博物館主催の探鳥会は、1月30日(土)、2月6日(土)、3月6日(土)の3回開催され、それぞれ22名、25名、23名が参加、石光章・持丸順彰・小林ますみ・水谷真人が指導しました。参加者アンケートでも好評を得て、次年度も引き続き開催する予定が進んでいます。

●会員数は

4月1日現在 2,082 人です。

活動と予定

3月13日(土) 4月号校正(海老原美夫・大坂幸男・志村佐治・長嶋宏之・藤掛保司)。

3月21日(日) 役員会(司会: 田邊八州雄、各部の報告・支部名称変更の時期・新規約案・その他)。

3月23日(火)「支部報だけの会員」に向け4月号を発送(倉林宗太郎)。

●5月の予定

5月1日(土) 編集部・普及部・研究部会。

5月8日(土) 6月号校正(午後4時から)。

5月15日(土) 袋づめの会(午後3時から)。

5月16日(日) 役員会(午後4時から)。

編集後記

今春、家の庭で、突然ツマグロオオヨコバイが大発生しました。狭い庭のあちこちを飛び回って家人は大騒ぎ。よく見ると、葉の裏で交尾しているものや、中にはディスプレイらしきをしているものもいたりして、私にとっては壮観な眺めでした。今年も昆虫ウォッチングはやめられそうにありませんね。(藤原)

しらこぼと 2010 年5月号(第 313 号) 定価 200 円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル
 (財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5436-2630 FAX 03-5436-2635
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社